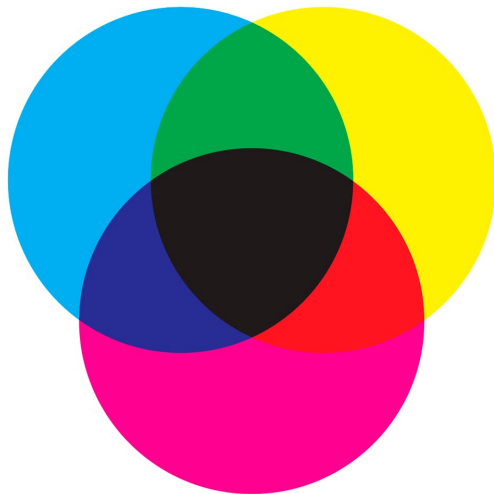




減法混色

げんぽうこんしょく



概要

減法混色 (subtractive mixture、subtractive color mixture) とは、物体色の混色によって明度の減少する現象をいいます。

色には光そのものの色 (光源色) と、光が物体に当たって反射・吸収・透過した際に生じる色 (物体色) があります。物体色はそれ自身が発光しない物体の色を指し、色の三原色といわれるシアン (Cyan)・マゼンダ (Magenta)・イエロー (Yellow) の三原色の混合比によってあらわすことができます。

絵具やインキ、フィルターなどの物体色は光を吸収する性質を持ち、そのため透過率が下がり暗い色になります。等量に混ぜ合わせると黒 (無彩色) になります。

また赤紫 (マゼンタ) と黄が重なり合うと赤に見えるように、色相も変化します。

カラープリントなど印刷では、三原色で黒を完全に再現することができないため、CMY に黒 (K) を合わせた四色 (CMYK) を用いて、すべての色を再現します。

減法混色の反対で、明度の増す混色は加法混色といえます。

※掲載している図版は、PC モニターでの閲覧を前提に作成したもので、実際の色彩と異なります

あ
か
さ
た
な
は
ま
や
ら
わ
A
B
C
D
E
F
G
H
I
J
K
L
M
N
O
P
Q
R
S
T
U
V
W
X
Y
Z
数
字